

置換行列についてのメモ

桂田 祐史

2011年12月9日, 10日

σ が n 次の置換であるとは、 σ が $\{1, 2, \dots, n\}$ から $\{1, 2, \dots, n\}$ への全単射であることをいう。 n 次の置換全体を n 次対称群と呼び、 S_n と書く。

二つの置換の積を写像としての積として定める:

$$\tau\sigma := \tau \circ \sigma, \quad \text{i.e.} \quad (\tau\sigma)(i) = \tau(\sigma(i)) \quad (i \in \{1, \dots, n\}).$$

(これとは反対に $(\tau\sigma)(i) = \sigma(\tau(i))$ と定義する流儀もあるようだ。必要がない場合、どちらで定義するか書かない、という日和見な(?) 流儀もあるようだ。いずれにせよ、本質的な違いがあるわけではない。)

$\sigma \in S_n, A = (\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n) \in M(n; \mathbb{K})$ に対して、 A_σ を

$$A_\sigma := (\mathbf{a}_{\sigma(1)}, \dots, \mathbf{a}_{\sigma(n)}) \quad (\text{i.e., } A_\sigma \text{ の } (i, j) \text{ 成分} = a_{i\sigma(j)})$$

で定める (列ベクトルの置換)。

e_i を第 i 成分のみが 1 で、他の成分は 0 である n 次元ベクトルとする。 n 次単位行列を I とすると、 $I = (e_1, \dots, e_n)$ である。

命題 0.1 (I_σ は右からかけると列ベクトルを置換する) $\sigma \in S_n, A \in M(n; \mathbb{K})$ に対して、

$$AI_\sigma = A_\sigma.$$

証明 $A = (\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n)$ とする。 $\forall k \in \{1, \dots, n\}$ に対して、

$$Ae_k = \mathbf{a}_k$$

が成り立つことは高校以来おなじみであろう。

$$AI_\sigma = A(e_{\sigma(1)}, \dots, e_{\sigma(n)}) = (Ae_{\sigma(1)}, \dots, Ae_{\sigma(n)}) = (\mathbf{a}_{\sigma(1)}, \dots, \mathbf{a}_{\sigma(n)}) = A_\sigma. \blacksquare$$

命題 0.2 $\forall \sigma \in S_n$ に対して、 I_σ は実直交行列である (すなわち $I_\sigma^{-1} = I_\sigma^T$)。

証明 $i \neq j \Leftrightarrow \sigma(i) \neq \sigma(j)$ であることに注意すると、一般に $(e_{\sigma(i)}, e_{\sigma(j)}) = \delta_{\sigma(i)\sigma(j)} = \delta_{ij}$ が成り立つことが分かる。ゆえに $\{e_{\sigma(i)}\}_{i=1}^n$ は正規直交系であるから、 I_σ は直交行列である。■

命題 0.3 $I_\tau I_\sigma = I_{\tau\sigma}$. 特に $I_{\sigma^{-1}} = I_\sigma^{-1}$.

証明 $A = I_\tau = (e_{\tau(1)}, \dots, e_{\tau(n)})$ とするとき、 $a_k = e_{\tau(k)}$ ($k = 1, \dots, n$) であって、

$$I_\tau I_\sigma = AI_\sigma = A_\sigma = (a_{\sigma(1)}, \dots, a_{\sigma(n)}) = (e_{\tau(\sigma(1))}, \dots, e_{\tau(\sigma(n))}) = I_{\tau\sigma}. \blacksquare$$

$\sigma \in S_n, A = \begin{pmatrix} b_1^T \\ \vdots \\ b_n^T \end{pmatrix} \in M(n; \mathbb{K})$ に対して、 ${}^\sigma A$ を

$${}^\sigma A := \begin{pmatrix} b_{\sigma(1)}^T \\ \vdots \\ b_{\sigma(n)}^T \end{pmatrix} \quad (\text{i.e., } {}^\sigma A \text{ の } (i, j) \text{ 成分} = a_{\sigma(i)j})$$

で定める。

命題 0.4 $A \in M(n, \mathbb{K}), \sigma \in S_n$ とするとき、

$$(I_\sigma)^T A = I_\sigma^{-1} A = {}^\sigma A.$$

証明 $A = \begin{pmatrix} b_1^T \\ \vdots \\ b_n^T \end{pmatrix}$ とおくとき、

$$(I_\sigma)^T A = (I_\sigma)^T (A^T)^T = (A^T I_\sigma)^T = \left((b_1, \dots, b_n) I_\sigma \right)^T = (b_{\sigma(1)}, \dots, b_{\sigma(n)})^T = \begin{pmatrix} b_{\sigma(1)}^T \\ \vdots \\ b_{\sigma(n)}^T \end{pmatrix} = {}^\sigma A. \blacksquare$$

昨日 (2011 年 12 月 9 日) 問題となった置換行列は、

$$P = (e_1, e_{N+1}, e_2, e_{N+2}, \dots, e_N, e_{2N})$$

である。 $\sigma \in S_n$ を

$$\begin{aligned} \sigma(1) &= 1, \sigma(2) = N + 1, \\ \sigma(3) &= 2, \sigma(4) = N + 2, \\ &\dots, \\ \sigma(2j - 1) &= j, \sigma(2j) = N + j, \\ &\dots, \\ \sigma(2N - 1) &= N, \sigma(2N) = 2N \end{aligned}$$

で定めるとき、 $P = I_\sigma$.

$A = (a_{ij}), \sigma \in S_n$ に対して、

$$I_\sigma^{-1} A I_\sigma = (a_{\sigma(i)\sigma(j)}).$$